



県政世論調査

平成 19 年度

概要報告書



静岡県

目次

	ページ	
調査の概要	1	
生活についての意識	2	暮らし向き
	3	日常生活の悩みや不安
県の仕事に対する関心	4	県政への関心度
	5	県への意見や要望、不満
	6	県への意見や要望を反映させる手段
	7	広報媒体の浸透度
	9	県の主要イベントの周知状況
	11	県に望む施策
NPOに関する意識	12	NPOの活動に参加した経験
	12	NPOの活動を活発にするために必要なこと
男女共同参画社会づくりにおける意識	13	男女の役割を固定的に考えることについて
	13	性別に関係なく能力を発揮する機会の確保について
地域で共に支え合う高齢社会に向けての意識	14	県民の地域活動への参加状況
	14	県民の地域住民との付き合い方
	15	地域で共に支え合うために必要なこと
メタボリックシンドロームに対する意識	16	メタボリックシンドロームの認知度
農地・水・農村環境の保全に関する意識	17	農地・農業用水の保全が役立つと思うこと
	17	農地・農業用水を主体的に守っていく必要があると思う人
	18	農業用施設の保全活動への参加
交番等に勤務する制服警察官の活動に対する意識	19	制服警察官や交番相談員を見かける頻度
	19	交番が一時的に不在となることについて

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) NPOに関する意識
- (4) 男女共同参画社会づくりにおける意識
- (5) 地域で共に支え合う高齢社会に向けての意識
- (6) メタボリックシンドロームに対する意識
- (7) 農地・水・農村環境の保全に関する意識
- (8) 交番等に勤務する制服警察官の活動に対する意識

3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 2,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 調査員による面接調査
- 調査時期 平成19年7月24日～8月19日
- 調査機関 社団法人 中央調査社

4 回収結果

	20歳以上の推定人口	標本数	回収率 (%)
東 部	1,009,924	662	484 (73.1)
中 部	991,479	649	488 (75.2)
西 部	1,051,066	689	534 (77.5)
全 県	3,052,469	2,000	1,506 (75.3)

この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示した。数表・グラフの百分率は小数第2位を、結果の概要説明文では小数第1位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は1,506を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 質問の末尾に(M. A.)とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

暮らし向き ———「同じようなもの」という人は65%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべてどうでしょうか。楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。

暮らし向き

- 65%が「同じようなもの」と回答している。
「苦しくなっている」は31%と、ほぼ3人に1人の割合となっている。

経年比較

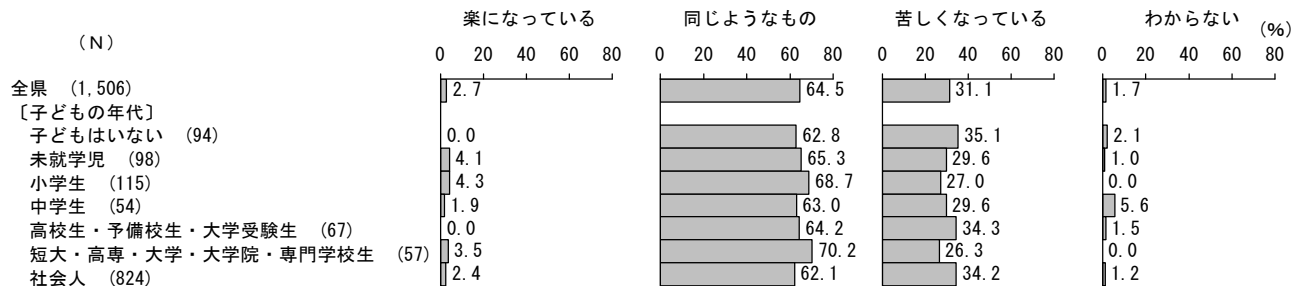
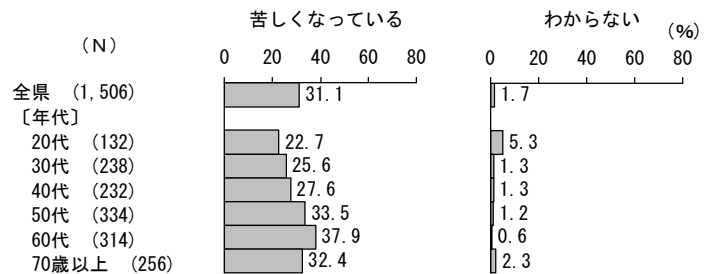
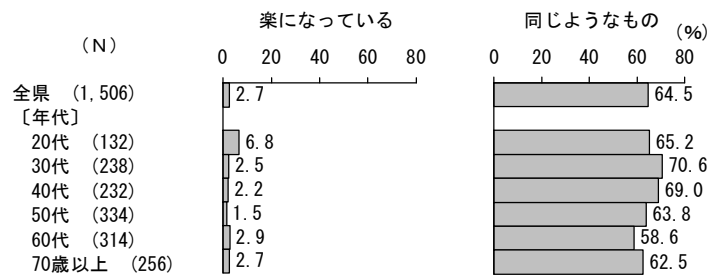
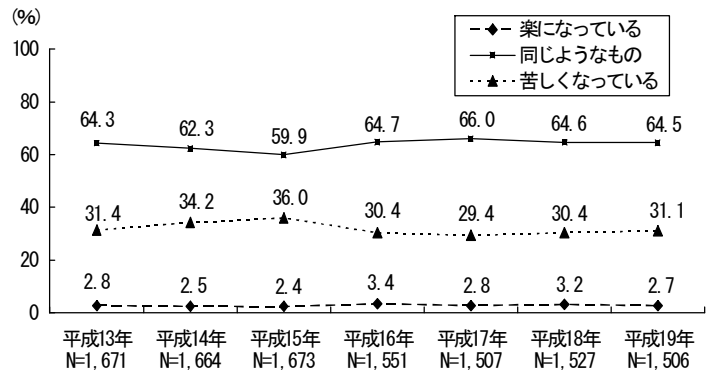
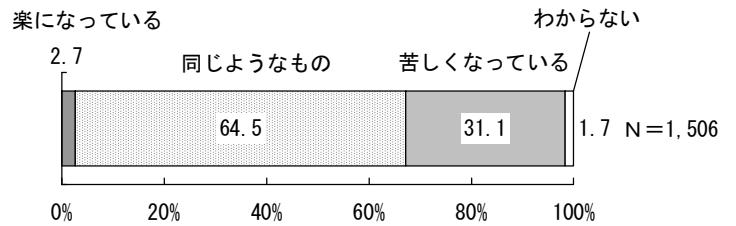
- 平成13年度から15年度までは、「苦しくなっている」は増加傾向であったが、平成16年度から減少傾向に転じた。しかしながら、前年度より、再び増加傾向の兆しがみえ、本年度は0.7ポイントの増加となっている。一方、「楽になっている」は、前年度より0.5ポイント減少した。

年代別

- 「苦しくなっている」と回答している人は、20代は低めであるが、年代が上がるほど上昇する傾向にある。特に60代では、4割弱の人が、「苦しくなっている」と回答している。

子どもの年代別

- 「苦しくなっている」と回答している人の子どもの年代は、子どもはいない、高校生・予備校生・大学受験生及び社会人が特に高くなっている。「同じようなもの」では、短大・高専・大学・大学院・専門学校生が最も高く、70%となっている。



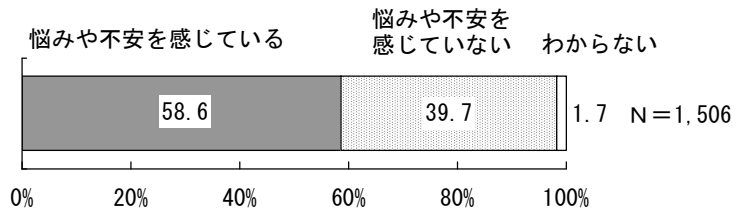
日常生活の悩みや不安 —— 「悩みや不安を感じている」人が59%

Q2 あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも別に不安は感じていませんか。

SQ 〔回答票1〕 悩みや不安に思っていることは、どのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

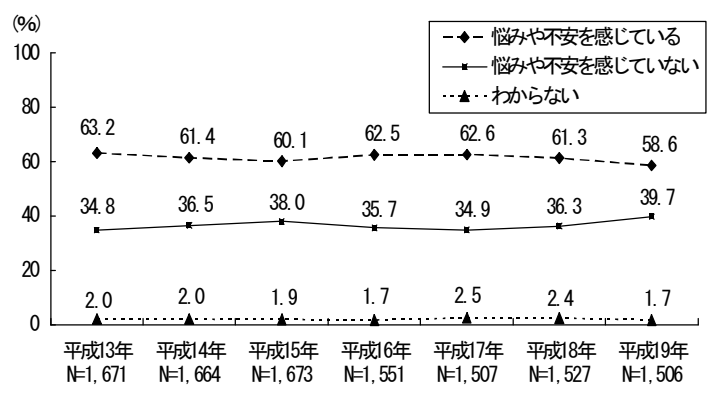
日常生活の悩みや不安

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は、6割弱を占めている。



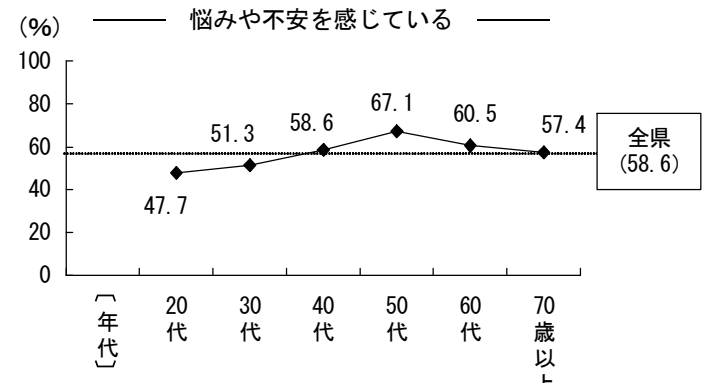
経年比較

●「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成13年度以降は、横ばいで推移していたが、前年度から減少傾向に転じており、本年度は、前年度と比較して2.7ポイント減少している。一方、「悩みや不安を感じていない」人は前年度から増加傾向に転じており、本年度は、前年度と比較して3.4ポイント増加している。



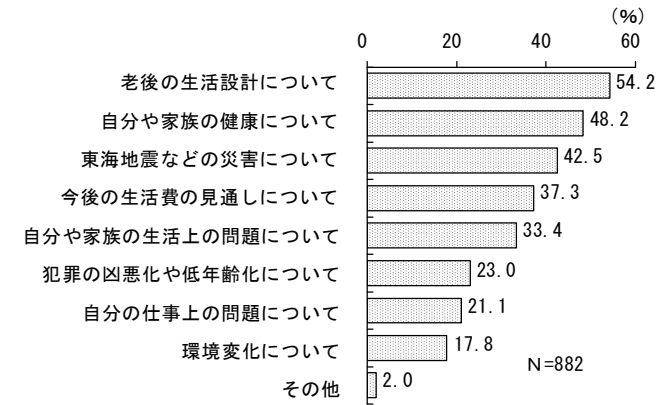
年代別

●「悩みや不安を感じている」人の割合は、50代をピークとして、40代、60代において高めとなっている。



SQ 悩みや不安の内容

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容についてたずねたところ、「老後の生活設計について」が54%で最も高く、以下、「自分や家族の健康について」、「東海地震などの災害について」、「今後の生活費の見通しについて」、「自分や家族の生活上の問題について」、「犯罪の凶悪化や低年齢化について」、「自分の仕事上の問題について」、「環境変化について」の順となっている。



県政への関心度 ——— 「県政に関心を持っている」人は60%

Q3

〔回答票2〕あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。この中ではどうでしょうか。

SQ1

〔回答票3〕県政に関心がある理由をこの中から1つだけあげてください。

SQ2

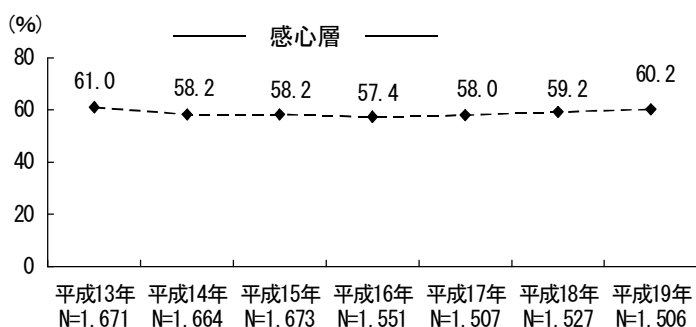
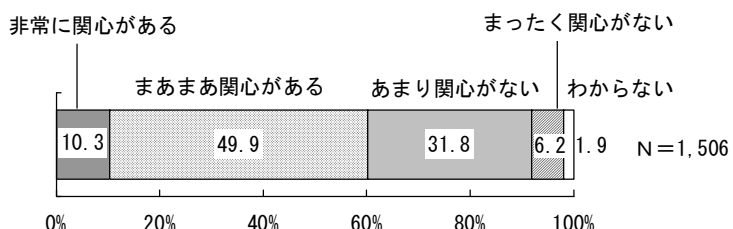
〔回答票4〕県政に関心がない理由をこの中から1つだけあげてください。

県政への関心度

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせて60%の人が県政に関心があると回答している。

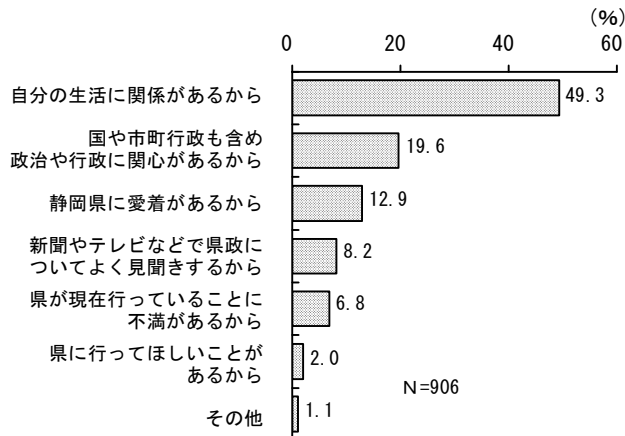
経年比較

- 県政に関心を持っている人の合計は、平成13年度に6割を越えており、その後は50%台で推移していたが、本年度は前年度よりも1ポイント増加し、6割に達している。



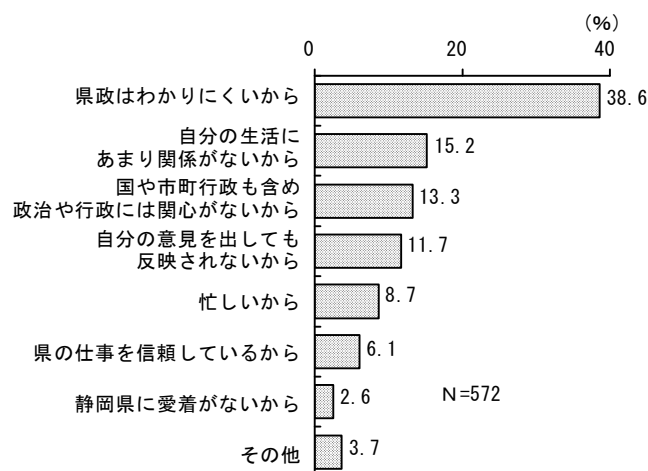
SQ1 関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」が49%と最も高く、以下、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」、「静岡県に愛着があるから」の順となっている。



SQ2 関心がない理由

- 「県政はわかりにくいから」が39%と最も高く、以下、「自分の生活にあまり関係がないから」、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」、「自分の意見を出しても反映されないから」の順となっている。



県への意見や要望、不満

——意見や要望、不満が「ある」人は37%、そのうち県に伝えた人は11%

Q4

あなたは、この1年間に県の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

SQ1

それでは、そのことを県に伝えましたか。

SQ2

〔回答票5〕意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由をこの中から1つだけあげてください。

県への意見や要望、不満

- 県の仕事について、意見や要望及び不満が「ある」と回答した人は、37%となっている。

年代別

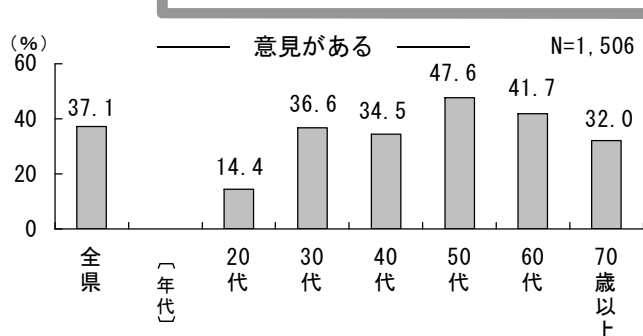
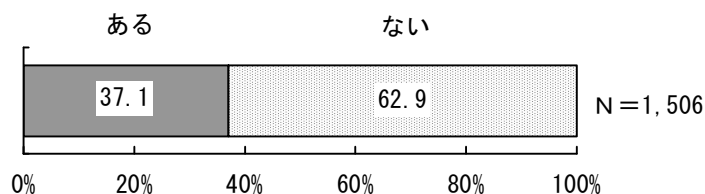
- 意見や要望、不満が「ある」人の割合は、50代で高く、半数近くを占めている。

SQ1 伝達の有無

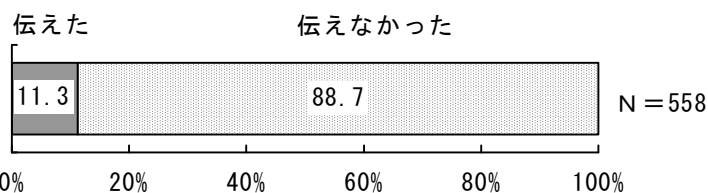
- 意見や要望、不満が「ある」人のうち、県に伝えた人は11%にとどまっている。

SQ2 伝達しなかった理由

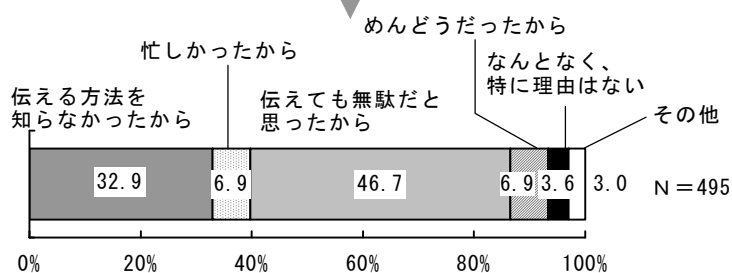
- 県の仕事について意見や要望を持ったり、不満を感じたことが「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人にその理由を聞いたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が47%で最も高くなっている。次いで、「伝える方法を知らなかったから」が33%となっている。



不満層 37%



伝えなかった 89%



県への意見や要望を反映させる手段

「県民の意見や要望を各機関の職員が聴く制度の充実」が28%で最も高い

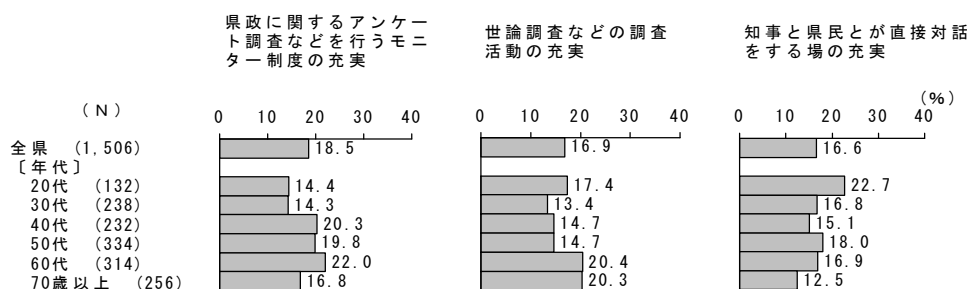
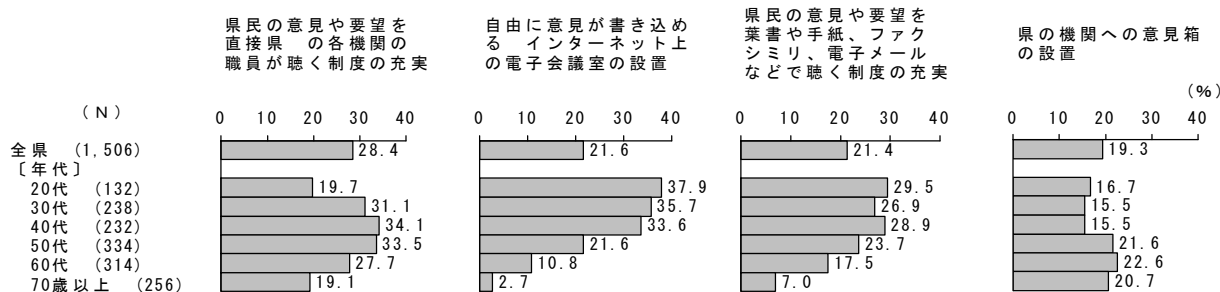
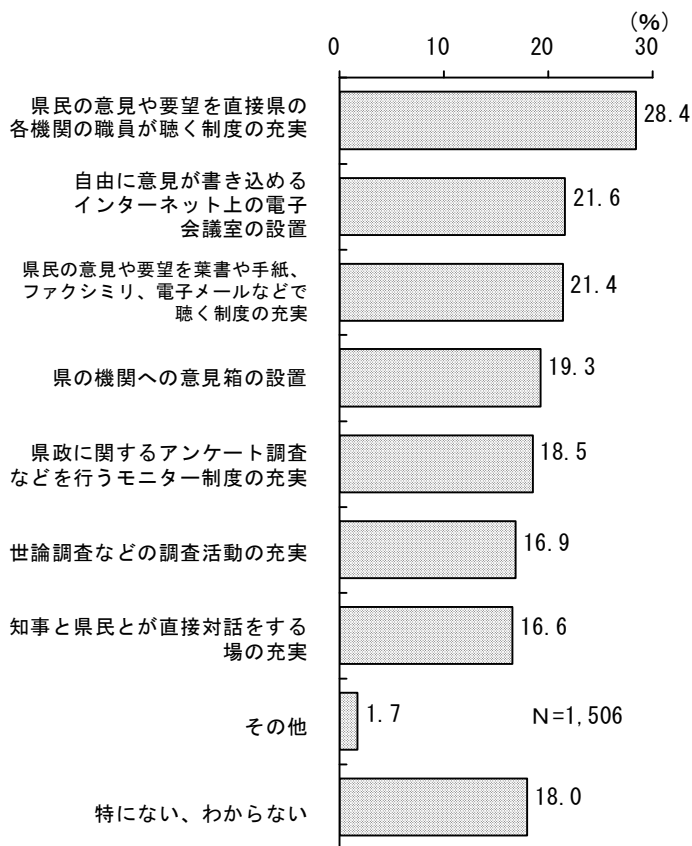
Q5 「回答票6」あなたの意見や要望を県政に反映させるために、どのようなことを充実させてほしいですか。この中から2つまであげてください。(2M, A.)

県への意見や要望を反映させる手段

- 「県民の意見や要望を各機関の職員が聴く制度の充実」が28%で最も高く、以下、
「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」、「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」、「県の機関への意見箱の設置」、「県政に関するアンケート調査などを行うモニター制度の充実」の順となっている。

年 代 別

- 「県民の意見や要望を各機関の職員が聴く制度の充実」は40代をピークとして、30代、50代で高くなっている。また、「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」は、20代で38%と最も高く、年代が上がるにつれて減少している。



広報媒体の浸透度

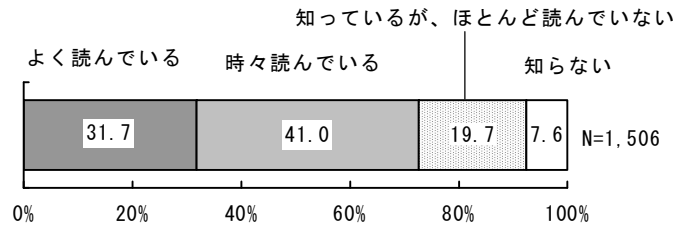
———「県民だより」を読んでいる人は73%、「テレビコマーシャル」を見た人61%

Q6

〔回答票7〕あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれについて1つだけお答えください。

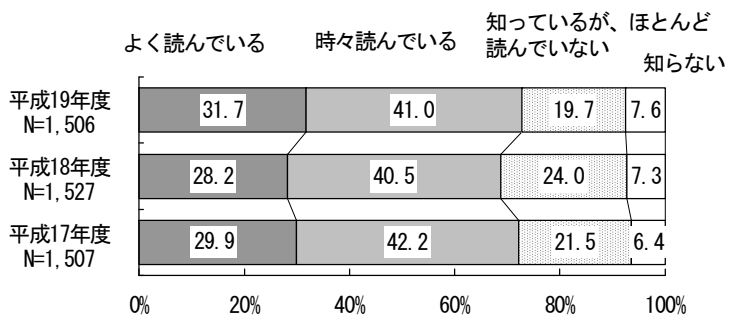
県民だより

- 「よく読んでいる」人が32%、「時々読んでいる」人が41%で、合わせると7割以上が読んでいる。



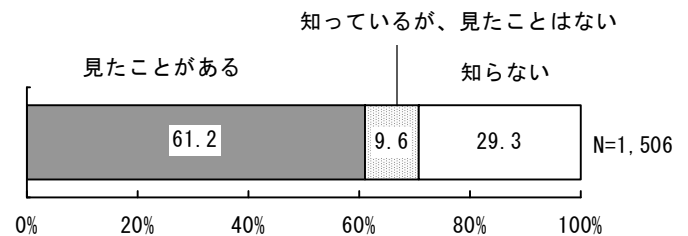
経年比較

- 本年度は前年度より、「よく読んでいる」が3.5ポイント増加し31.7%、「時々読んでいる」が0.5ポイント増加し41.0%となっており、平成17年度とほぼ同様となっている。



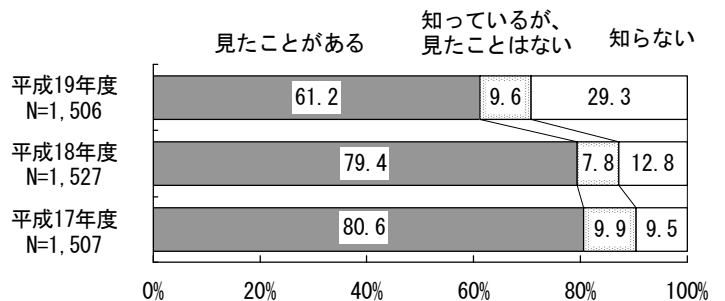
テレビコマーシャル

- 「見たことがある」が61%で、「知らない」は29%となっており、「見たことがある」が半数以上を占めている。



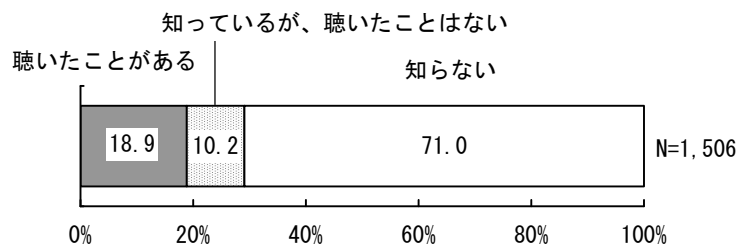
経年比較

- 「見たことがある」は年々減少し、平成17、18年度は約8割となっていたが、本年度は大きく減少し、約6割となっている。



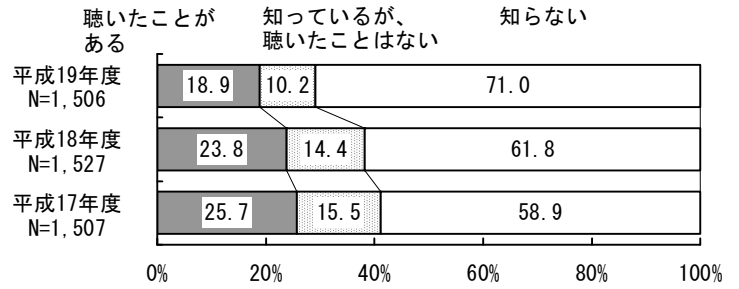
ラジオ広報番組

- 「聞いたことがある」は19%、一方、「知らない」は71%となっている。



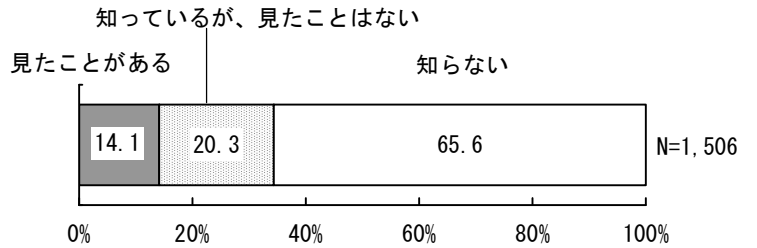
経年比較

- 「聞いたことがある」、「知っているが、聞いたことはない」割合は、減少傾向にある。本年度は、昨年度よりそれぞれ4.9ポイント、4.2ポイントの減少となっている。



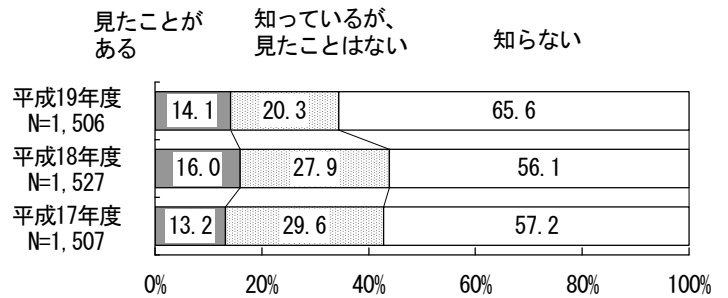
県のホームページ

- 「見たことがある」が14%、「知らない」が66%となっている。



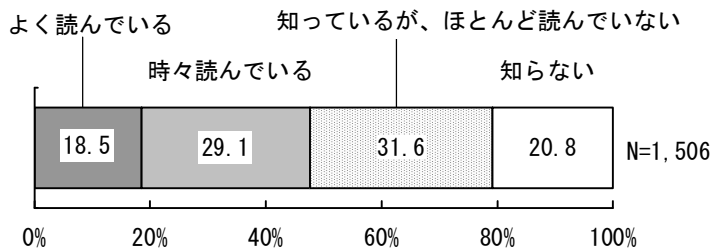
経年比較

- 「見たことがある」、「知っているが、見たことはない」は、共に年々増加し、昨年度は合わせて44%となっていたが、本年度は共に昨年度より減少し、合わせて34%となっている。



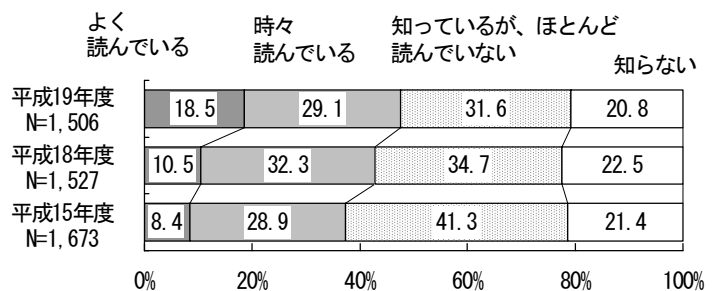
静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」人が19%、「時々読んでいる」人が29%で、合わせると、約5割弱の人が呼んでいる。



経年比較

- 「よく読んでいる」割合は増加傾向にあり、本年度は昨年度より、8ポイント増加している。一方、「知っているが、ほとんど読んでいない」は減少傾向にあり、本年度は平成15年度より約10ポイント減少している。

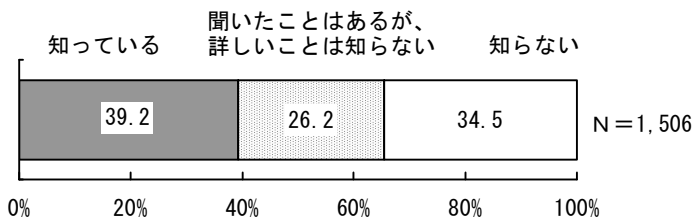


県の主要イベントの周知度 —— 「技能五輪国際大会」の周知度は65%

Q7 【回答票8】 今後、県内で開催が予定されている大会や行事についてお聞きます。
あなたは、これらの大会をご存じですか。

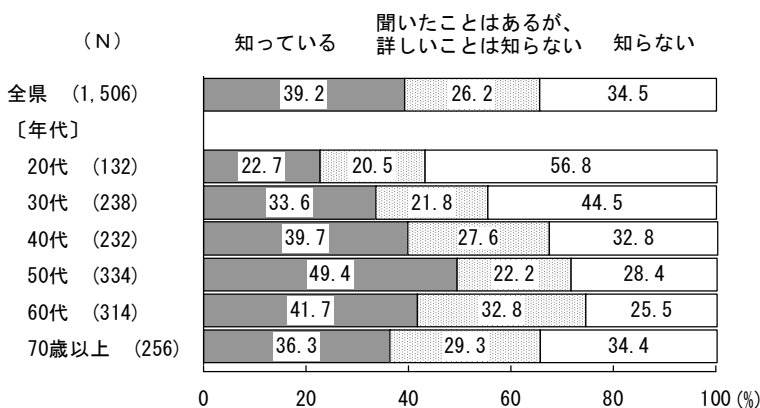
2007年ユニバーサル技能五輪国際大会

- 「知っている」は39%で、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が26%と合わせて6割半が認知している。



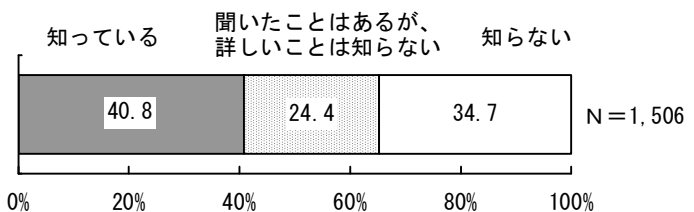
年 代 別

- 「知っている」と「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」を合わせた割合は、年代が上がるほど高くなっており、60代で75%とピークに達している。



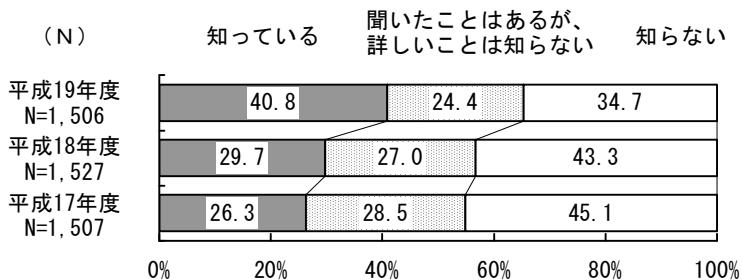
技能五輪国際大会

- 「知っている」が41%、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が24%で、合わせて、65%が認知している。



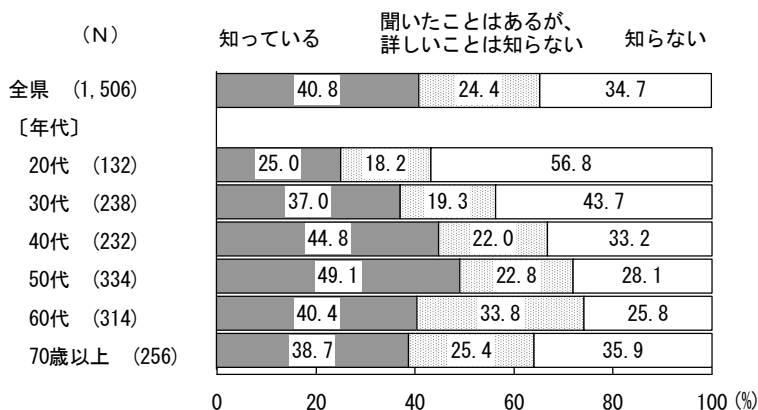
経 年 比 較

- 「知っている」は増加傾向にあり、前年度と比較すると、11.1ポイントの増加となっている。



年 代 別

- 「知っている」割合は、50代で最も高くなっており、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」と合わせると、60代では74%が認知している。



国際アビリンピック

- 「知っている」割合は22%、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」も22%で、合わせて44%が認知している。

経年比較

- 「知っている」割合は前年度より7.8ポイント増加しており、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」と合わせると10ポイント以上増加している。

年代別

- 「知っている」割合は、50代で29%となっており、最も高くなっている。一方、「知らない」割合は、30代で73%と高くなっている。

第24回国民文化祭・しずおか2009

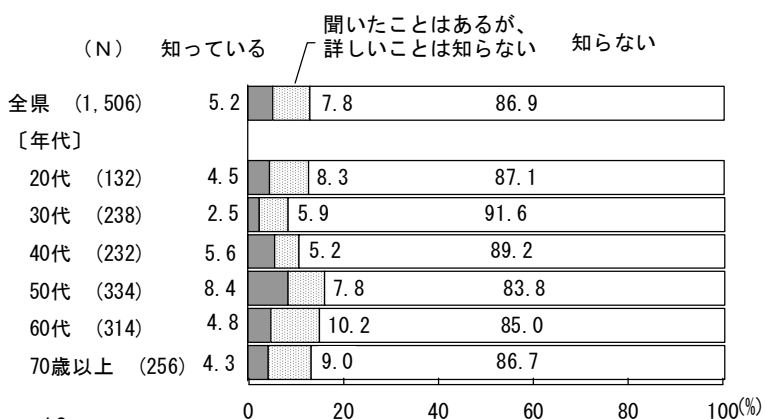
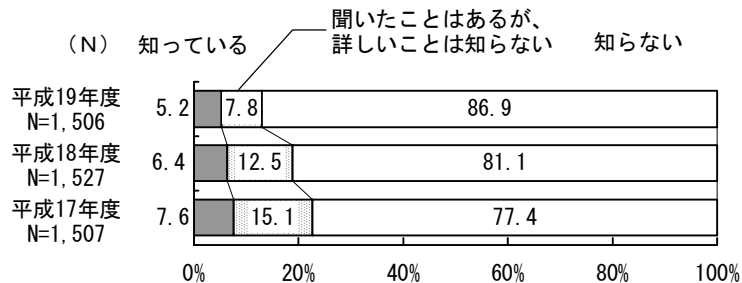
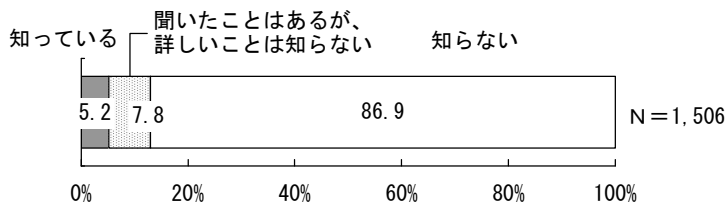
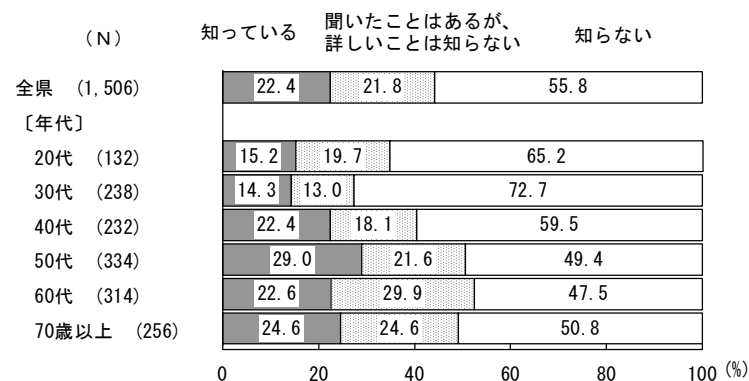
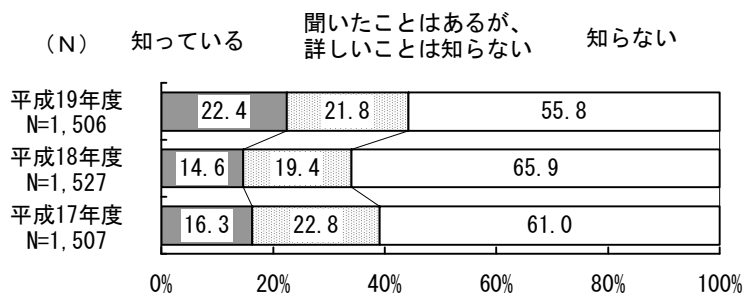
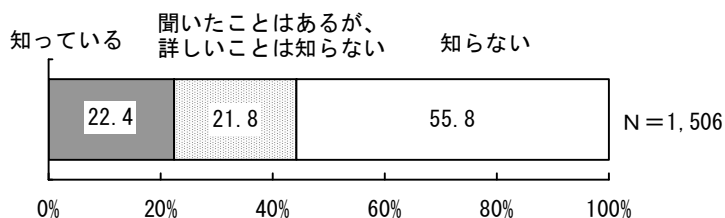
- 「知っている」割合は5%、「知らない」割合が87%となっており、大多数に認知されていない。

経年比較

- 「知っている」割合は、年々少しずつ減少している。一方、「知らない」割合は、年々少しずつ増加している。

年代別

- 「知っている」割合は、50代で最も高いが、全ての年代で1割未満となっている。「知らない」割合が最も高いのは、30代で、9割以上が認知していないという結果となった。



県に望む施策 —— 「地震や風水害などの防災対策の推進」が52%

Q8 「回答票9」あなたが、県に特に力を入れてほしいと考えることを、この中から5つまであげてください。(5M. A.)

県に望む施策

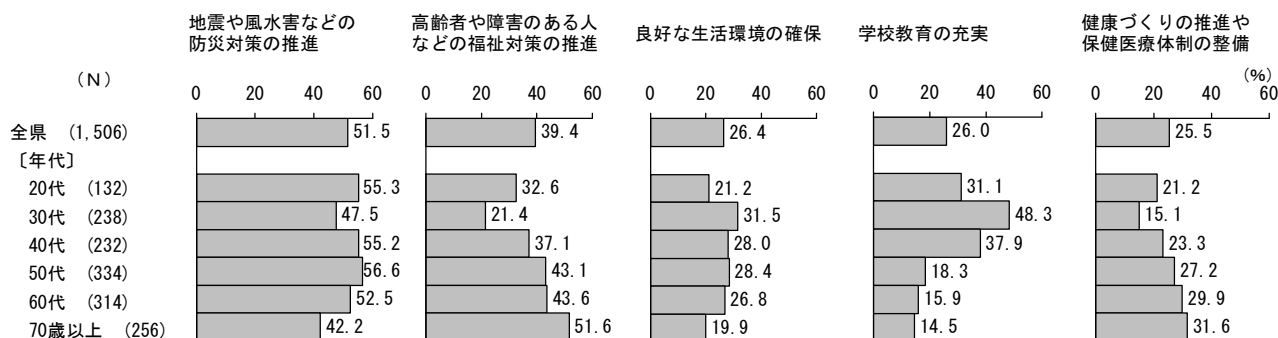
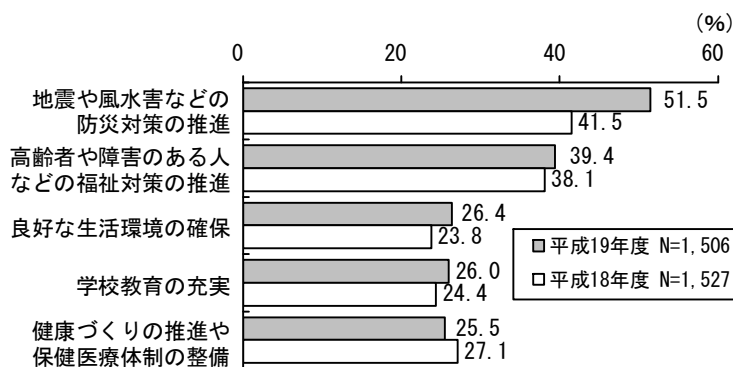
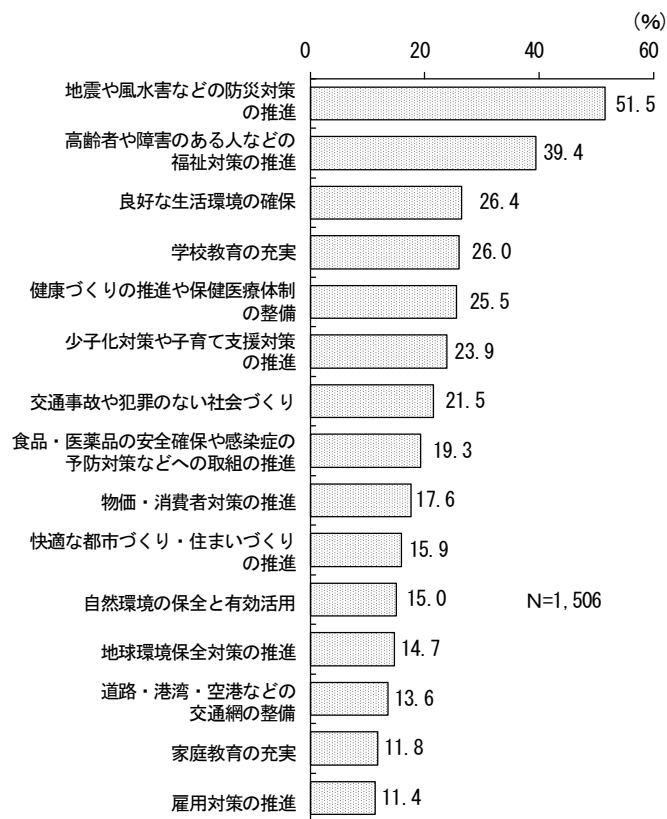
●「地震や風水害などの防災対策の推進」が52%で最も高くなっている。以下、「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、「良好な生活環境の確保」、「学校教育の充実」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」の順となっている（右図は上位15位）。

経年比較

●「地震や風水害などの防災対策の推進」は、前年度と同じく第1位であり、前年度と比較して10ポイント増加している。第2位の「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」も順位に変動はない。また、「良好な生活環境の確保」は2.6ポイント増加し、前年度の第7位から第3位に上昇した。

年代別

●「学校教育の充実」は、30代で48%と他の世代よりも高くなっている。また、「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」では、おおむね年代が上がるほど割合が高くなっている。



NPOに関する意識

——「NPOの活動に参加したことがある」人は8%、

参加したきっかけは「友人や知人に誘われた」が53%

- Q9** 〔回答票 10〕あなたは、過去5年間にNPOが行う活動に参加したことがありますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)
- SQ** 〔回答票 11〕あなたが、NPOの活動に参加したきっかけはどのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)
- Q10** 〔回答票 12〕あなたは、今後NPOの活動が一層活発になるためには、どのようなことが必要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

参加経験の有無

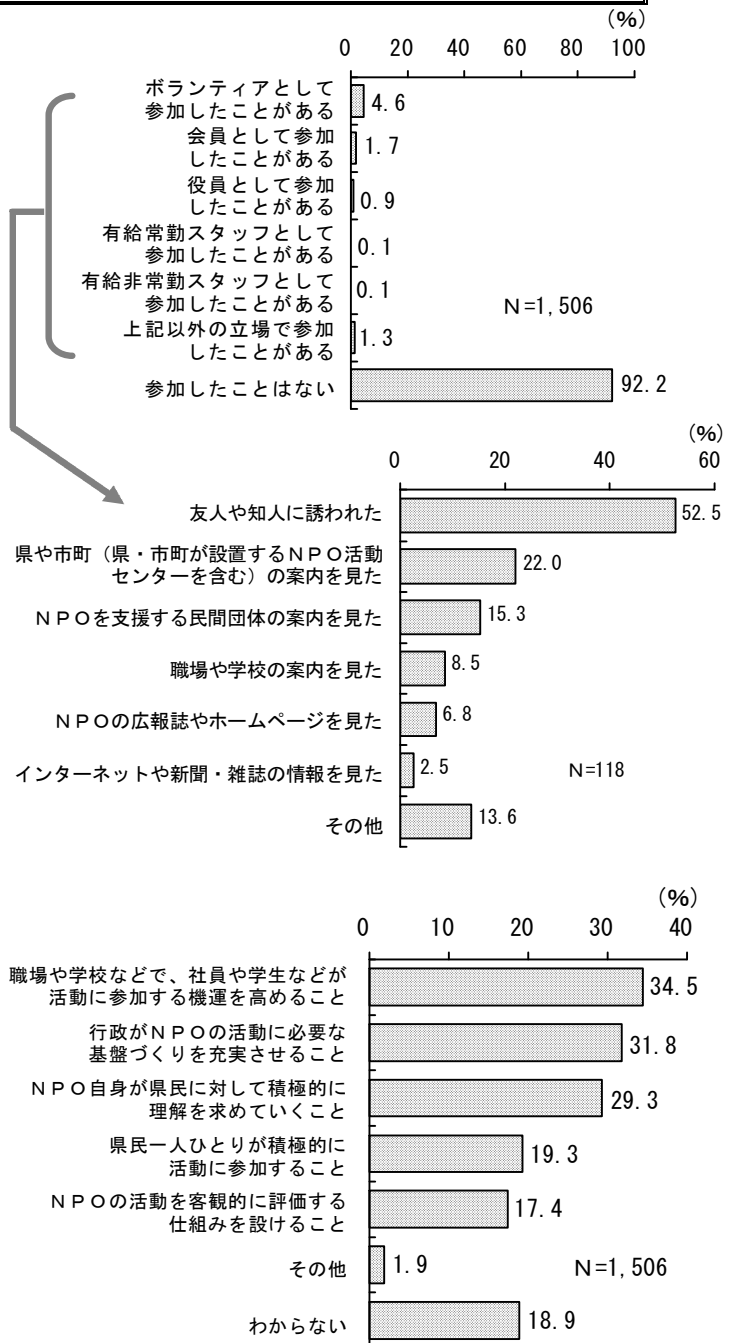
- 「参加したことはない」人が9割以上を占めている。一方、参加した人の中では、「ボランティアとして参加したことがある」が5%で最も高くなっている。

SQ 参加したきっかけ

- 「友人や知人に誘われた」が53%で最も高くなっている。以下、「県や市町の案内を見た」、「NPOを支援する民間団体の案内を見た」、「職場や学校の案内を見た」、「NPOの広報誌やホームページを見た」、「インターネットや新聞・雑誌の情報を見た」の順となっている。

活動を活発にするために必要なこと

- 「職場や学校などで、社員や学生などが活動に参加する機運を高めること」が35%で最も高くなっている。以下、「行政がNPOの活動に必要な基盤づくりを充実させること」、「NPO自身が県民に対して積極的に理解を求めていくこと」、「県民一人ひとりが積極的に活動に参加すること」、「NPOの活動を客観的に評価する仕組みを設けること」の順となっている。



男女共同参画社会づくりにおける意識

「男女の役割を固定的に考えることに「反対」の人が53%

Q11(1)

〔回答票 13〕「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。

Q11(2)

〔回答票 14〕本県において、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思いますか。

(1) 男女の役割についての固定的考え

- 「賛成」が12%、「どちらかといえば賛成」が27%で、合わせた“賛成層”は約40%となっている。一方、「どちらかといえば反対」が30%、「反対」が23%となっており、合わせた“反対層”は53%となっている。

性・年代別

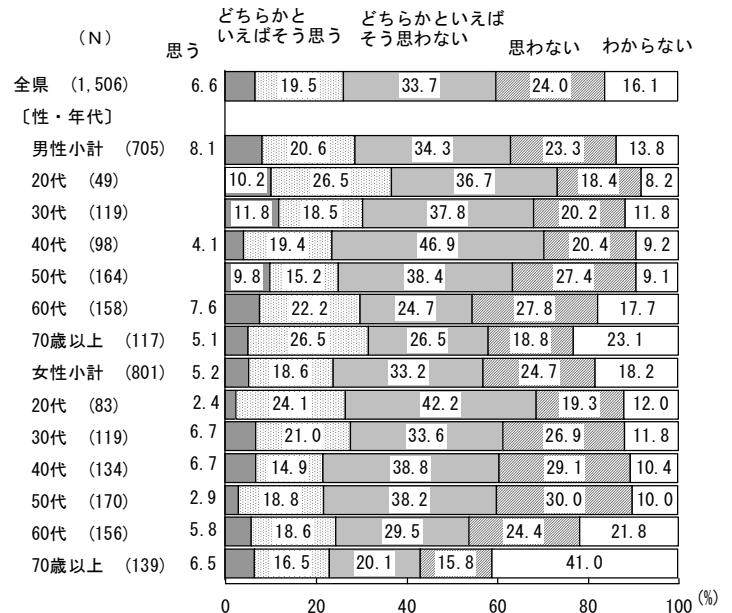
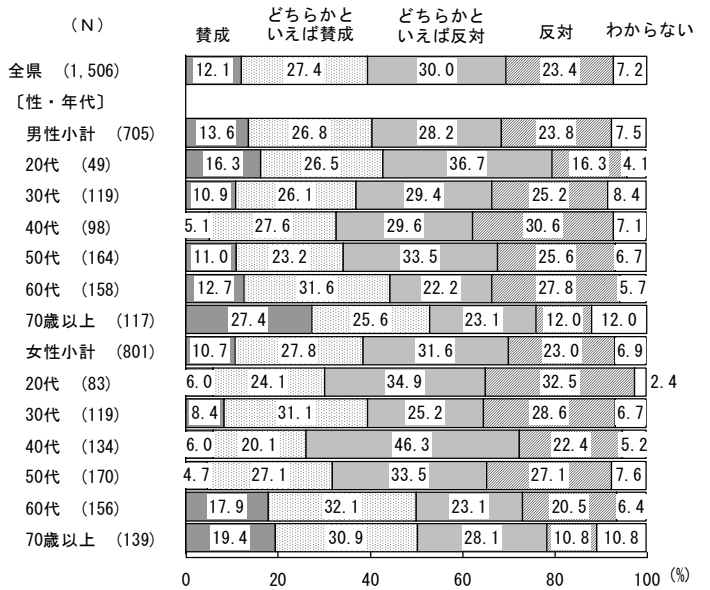
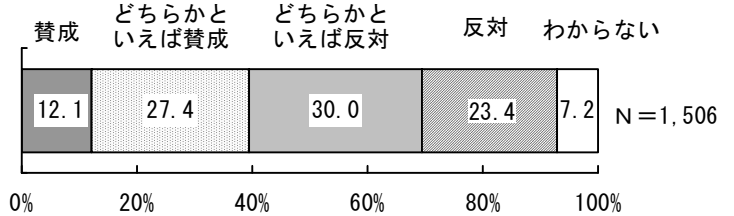
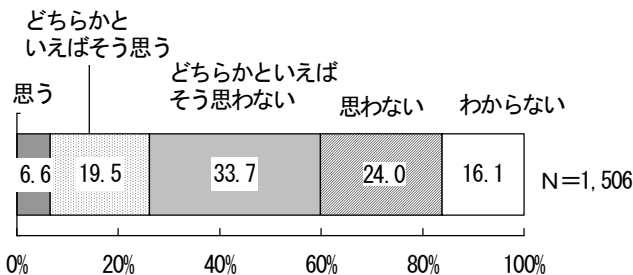
- 性・年代別にみると、“賛成層”は男女とも70歳以上で高くなっている。一方、“反対層”は女性の20代・40代で特に、高くなっている。

(2) 能力を発揮する機会の確保

- 機会が確保されていると「思う」が7%、「どちらかといえばそう思う」が20%で、合わせた“肯定層”が約27%、一方、「どちらかといえばそう思わない」が34%、「思わない」が24%で、合わせた“否定層”が58%となっている。

性・年代別

- 性・年代別にみると、“否定層”は男女とも40代・50代で高くなっており、全県より約10ポイント高くなっている。



地域で共に支え合う高齢社会に向けての意識

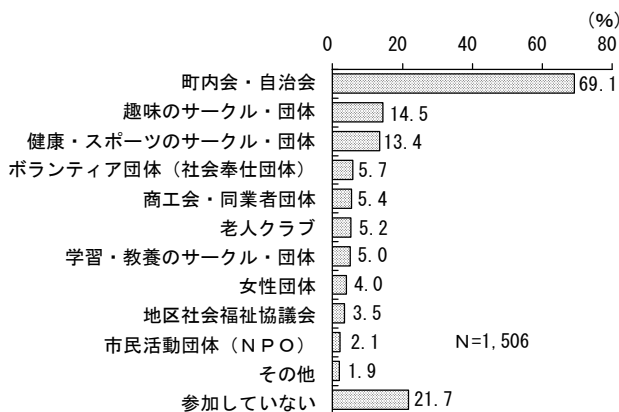
———県民が最も参加している地域活動は「町内会・自治会」で69%

Q12(1) 〔回答票 15〕あなたは、お住まいの地域で、どのような団体や組織の活動に参加していますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

Q12(2) 〔回答票 16〕あなたは、地域の人とどのような付き合い方をしていますか。この中から1つだけお答えください。

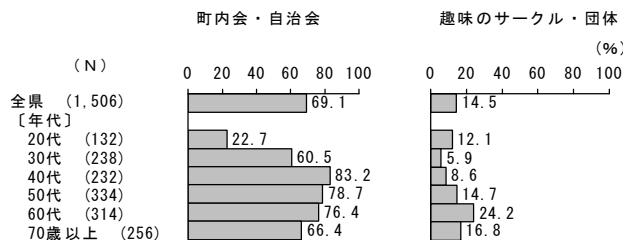
(1) 地域活動への参加状況

●地域で活動に参加している団体や組織は、「町内会・自治会」が69%で最も高くなっている。以下、「趣味のサークル・団体」、「健康・スポーツのサークル・団体」の順となっている。また、「参加していない」人が22%となっている。



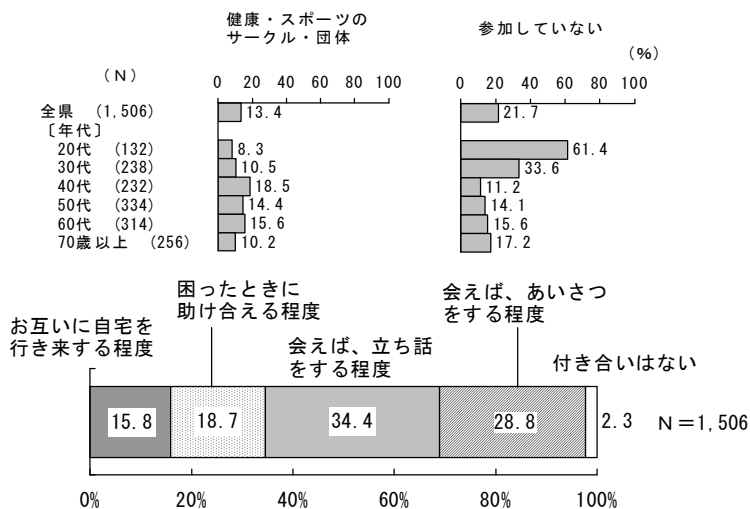
年代別

●年代別にみると、「町内会・自治会」は40代で83%と最も高くなっている。また、「参加していない」は20代で特に高くなっている。



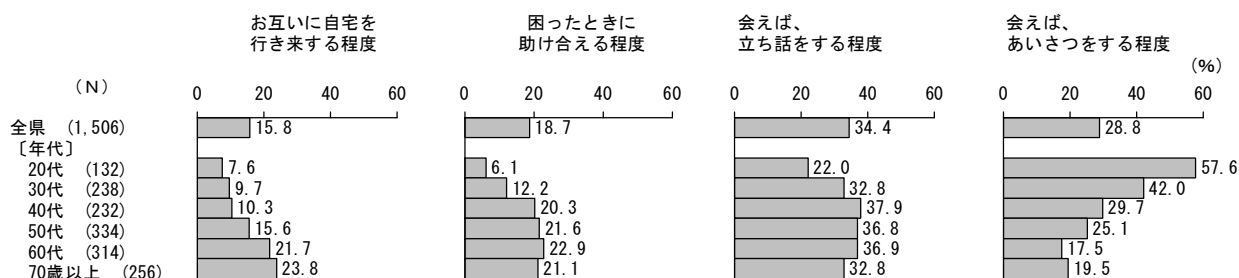
(2) 地域住民との付き合い方

●「会えば、立ち話をする程度」が34%で最も高くなっている。以下、「会えば、あいさつをする程度」が29%、「困ったときに助け合える程度」が19%、「お互いに自宅を行き来する程度」が16%の順となっている。



年代別

●年代別にみると、「会えば、あいさつをする程度」は20代で58%と最も高くなっている。

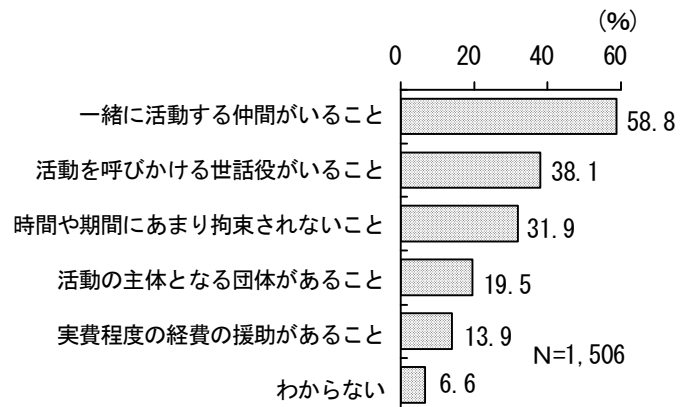


Q12(3)

〔回答票 17〕あなたは、地域で共に支え合うために、何が必要とお考えですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

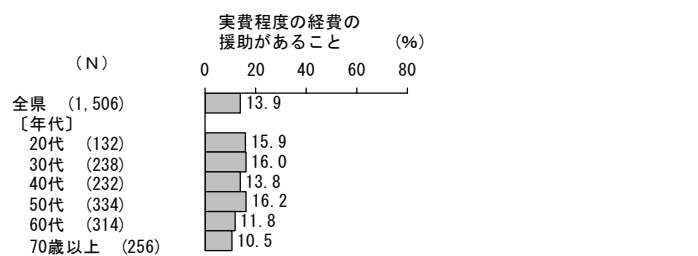
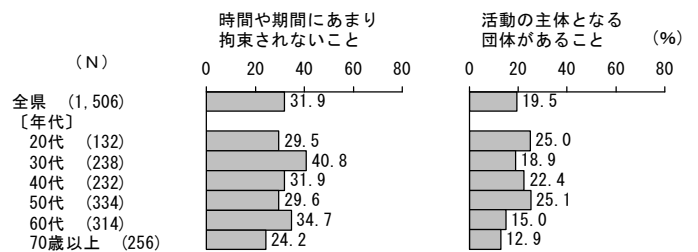
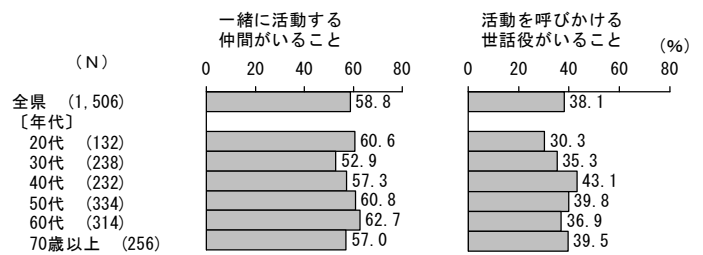
(3) 地域で共に支え合うために必要なこと

- 「一緒に活動する仲間がいること」が59%で最も高くなっている。以下、「活動と呼びかける世話役がいること」、「時間や期間にあまり拘束されないこと」、「活動の主体となる団体があること」、「実費程度の経費の援助があること」の順となっている。



年 代 別

- 年代別にみると、「時間や期間にあまり拘束されないこと」は、30代で41%と最も高くなっている。



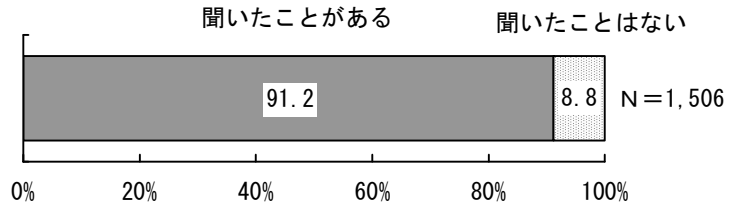
メタボリックシンドロームの認知度

———言葉の認知度は91%、内容の認知度は85%

Q13 あなたは、メタボリックシンドロームという言葉を知っていますか。
SQ あなたは、メタボリックシンドロームの内容を知っていますか。

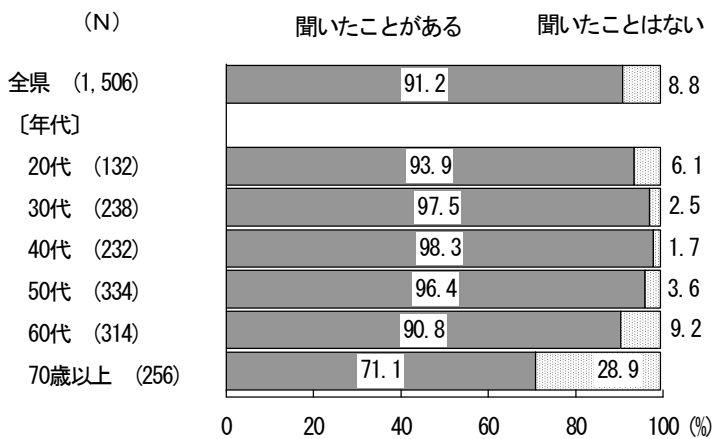
言葉の認知度

- メタボリックシンドロームという言葉を知っている人は91%で、認知度は9割を超えている。



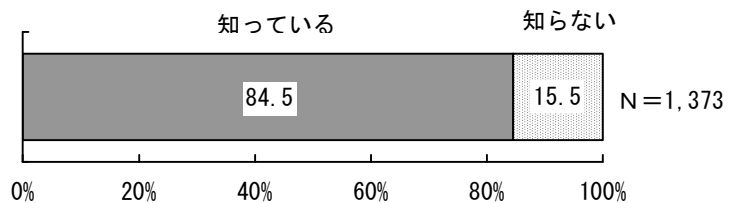
年代別

- 年代別にみると、「聞いたことがある」人は、70歳以上を除く全ての年代で90%を超えており、40代で98%とピークに達している。一方、70歳以上では71%と、全県より約20ポイント低くなっている。



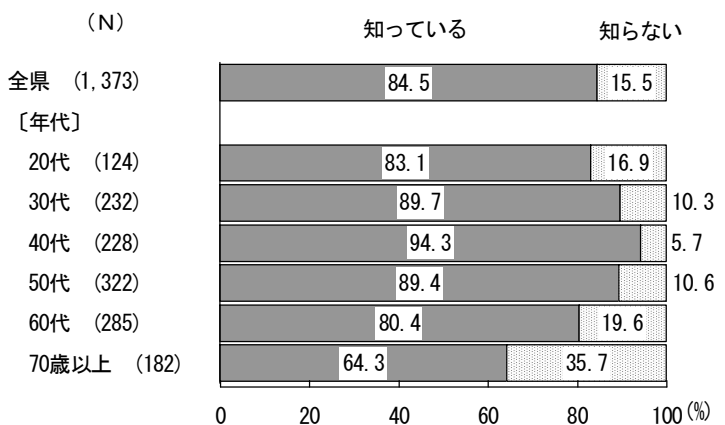
SQ 内容の認知度

- 内容を「知っている」人は85%となっている。



年代別

- 年代別にみると、「知っている」人は70歳以上を除く全ての年代で80%を超えており、40代で94%とピークに達している。一方、70歳以上では64%と、全県より約20ポイント低くなっている。



農地・水・農村環境の保全に関する意識

——農地・農業用水の保全が役立つことは「食料の安定生産」が72%

Q14(1)

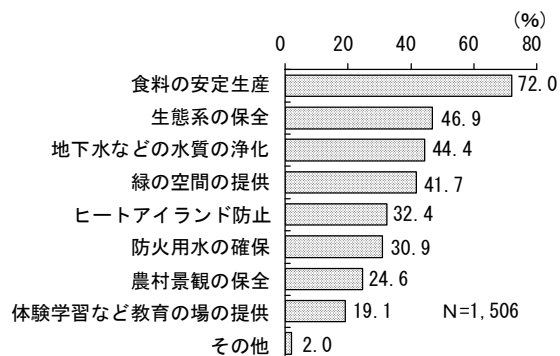
〔回答票 18〕 農地や農業用水を守ることはどのようなことに役立つと思いますか。
この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

Q14(2)

〔回答票 19〕 農地や農業用水は、誰が主体的に守っていく必要があると思いますか。
この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

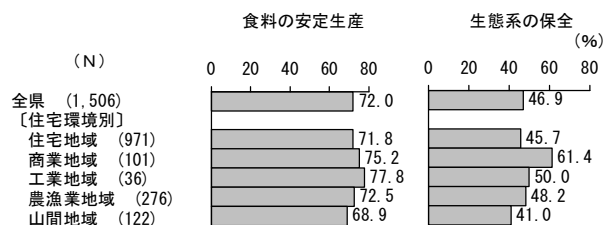
(1) 農地保全が役立つこと

- 「食料の安定生産」が72%で最も高くなっている。以下、「生態系の保全」、「地下水などの水質の浄化」、「緑の空間の提供」、「ヒートアイランド防止」、「防火用水の確保」の順となっている。



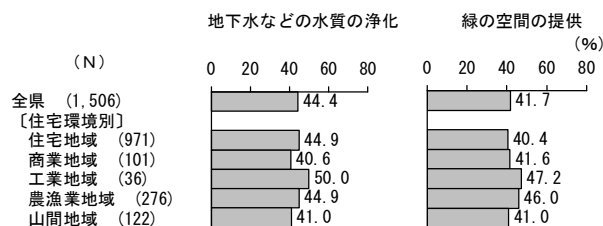
住宅環境別

- 住宅環境別にみると、「生態系の保全」は商業地域で61%と高くなっており、全県を10ポイント以上上回っている。



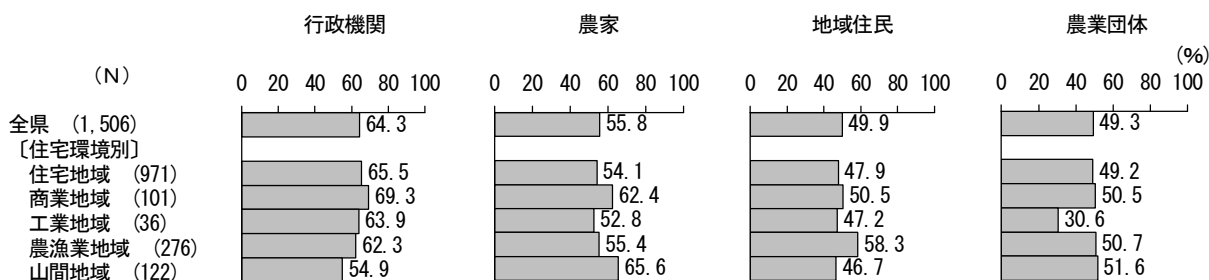
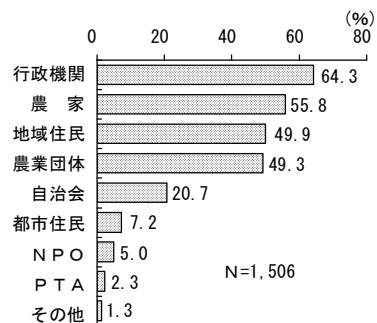
(2) 農地を主体的に守るべき人

- 「行政機関」が64%で最も高くなっている。以下、「農家」、「地域住民」、「農業団体」、「自治会」、「都市住民」、「NPO」、「PTA」の順となっている。



住宅環境別

- 住宅環境別にみると、「農家」は山間地域で66%、「地域住民」は農漁業地域で58%と、それぞれ全県より約10ポイント高くなっている。一方、「農業団体」は工業地域で31%と、他の地域と比べ低くなっている。



Q14(3) これまで、農家の皆様が行っていた農地や農業用水などの農業用施設の維持管理に、一般県民の皆さまにも参加していただき、協働により将来にわたって守っていこうという活動にあなたは参加したいですか。

SQ1 〔回答票 20〕あなたは、どのような活動に参加したいですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

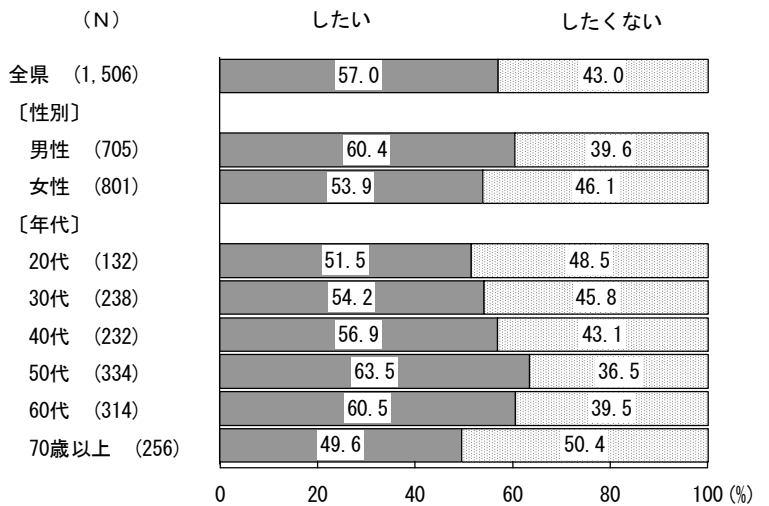
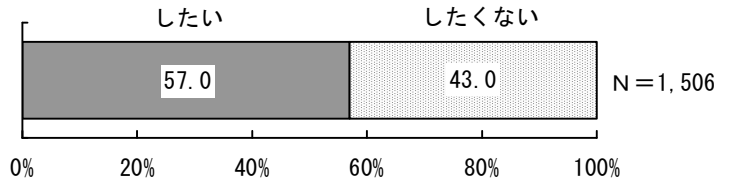
SQ2 〔回答票 21〕この活動に自発的に参加したくなる条件としてどのようなことが必要だとお考えになりますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

(3) 維持管理活動への参加

●農業用施設の維持管理活動に参加「したい」人は57%、「したくない」人が43%となっており、半数以上の人に参加したいという結果となっている。

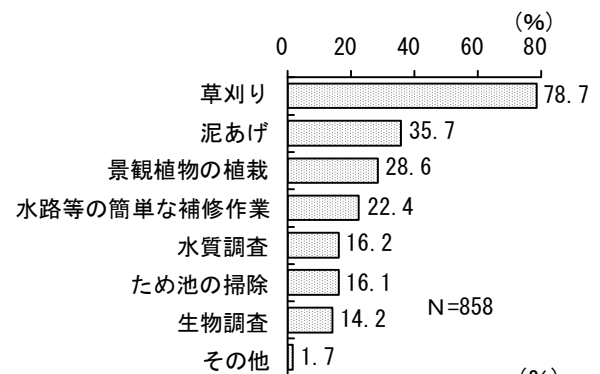
性別・年代別

●性別にみると、参加「したい」人は男性が女性を6.5ポイント上回っている。年代別にみると、参加「したい」人は、50代で64%とピークに達している。一方、70歳以上のみ、参加「したくない」人が5割を超えている。



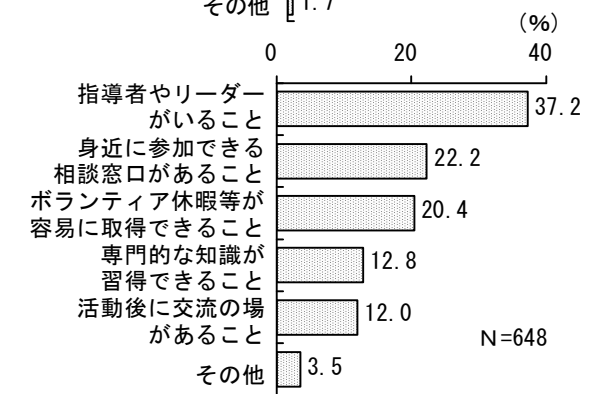
SQ1 参加を希望する保全活動

●「草刈り」が79%で第1位となっており、第2位の「泥あげ」36%よりも、40ポイント以上高くなっている。以下、「景観植物の植栽」、「水路等の簡単な補修作業」、「水質調査」、「ため池の掃除」、「生物調査」の順となっている。



SQ2 自発的参加の条件

●「指導者やリーダーがいること」が37%で最も高くなっている。以下、「身近に参加できる相談窓口があること」、「ボランティア休暇等が容易に取得できること」、「専門的な知識が習得できること」、「活動後に交流の場があること」の順となっている。



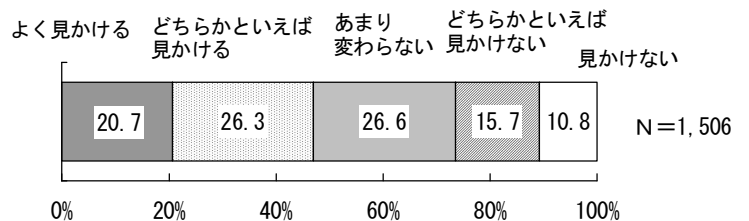
交番等に勤務する制服警察官の活動に対する意識

———「交番には必ず警察官を残してほしい」という人が38%

- Q15(1) 〔回答票 22〕 以前と比べて、街なかでパトロールする制服警察官の姿を見かけますか。
- Q15(2) 〔回答票 22〕 以前と比べて、交番で制服警察官や交番相談員の姿を見かけますか。
- Q16 〔回答票 23〕 事件事故防止等のためのパトロール強化等により、交番が一時的に不在になることについてどのようにお考えですか。この中から1つだけお答えください。

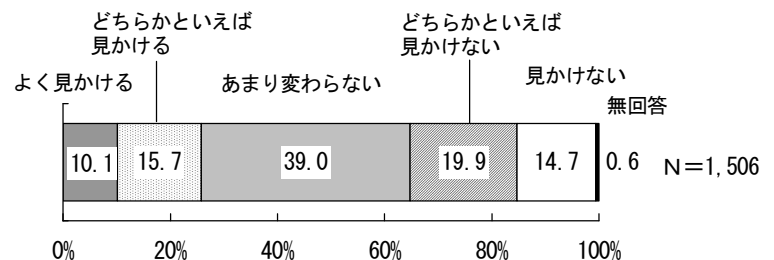
(1) 街なかで制服警察官を見かける頻度

- 以前と比べて、街なかでパトロールする制服警察官の姿を「よく見かける」人は21%、「どちらかといえば見かける」人は26%で、合わせた“以前より見かける”という人は47%となっており、“以前より見かけない”という人の27%よりも高くなっている。また、「あまり変わらない」と回答した人が27%となっている。



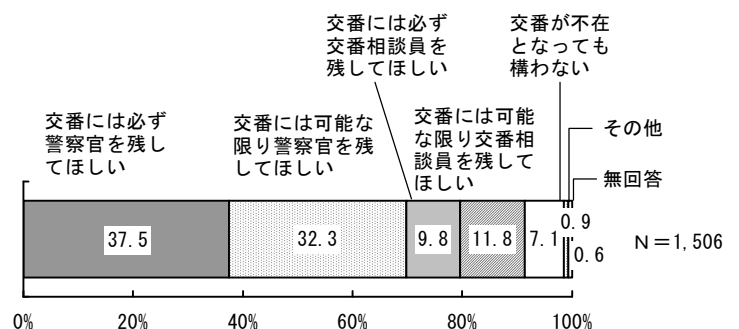
(2) 交番で制服警察官等を見かける頻度

- 以前と比べて、交番で制服警察官や交番相談員の姿を「よく見かける」人は10%、「どちらかといえば見かける」人は16%で、合わせた“以前より見かける”という人は26%となっており、“以前より見かけない”という人の35%を下回っている。また、「あまり変わらない」と回答した人が39%となっている。



交番が一時的に不在になることについて

- 「必ず警察官を残してほしい」が38%と最も高くなっている。次いで、「可能な限り警察官を残してほしい」が32%、「可能な限り交番相談員を残してほしい」が12%、「必ず交番相談員を残してほしい」が10%の順となっている。なお、「交番が不在となっても構わない」は7%となっている。



県政世論調査・概要報告書

平成 19 年 11 月発行

編集・発行 静岡県県民部県民のこえ室

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9-6

TEL 054(221)2235 FAX 054(221)2419

e-mail:koe@pref.shizuoka.lg.jp
